



福島県立梁川高等学校

平成 30 年 10 月 17 日

校長通信

Team Yanagawa

vol. 32

■ 稲刈のたけなはにして野はしづか (軽部鳥頭子)

収穫の秋です。出勤時の車窓からは稲刈りされた田圃が見られるようになり
ました。畦によって切り取られ田圃の中は、一面、規則正しく刈株が並んでい
ます。田の面には乾燥させる稲束が並べられたり、稲架（はぜ）の木組みに掛
け渡されたりして、まるで黄金色の絨毯やカーテンのようです。今年の「農林
水産省統計」によれば、福島県の水稲の作柄概況は「やや良」ということでした。夏の猛暑や
台風の影響はそれ程ではなかったようです。夕方は「釣瓶落とし」の言葉通り、日が傾いたか
と思うと、あっという間に沈むようになりました。退勤時の車窓からは、日が暮れて田圃風景
を思ふことができませんが、自宅に到着後、夜空にさえぎえと浮かんでいる月を眺めていると、
秋の深まりが身にしみて感じられる今日この頃です。



■ 「戊辰戦争 150 年」展を見て ～戊辰戦争と梁川～

会津若松市の県立博物館で行われていた「**戊辰戦争 150 年**」展を見てきました。幕末の政治の
混乱の中で、会津藩と東北・北越諸藩が同盟を結んで戦わざるを得なかった姿が、数多くの出品資
料からひしひしと伝わってくる見応えのある展示でした。

戊辰戦争は、王政復古後に公議政体論を主張する政治勢力と、旧幕府武力討伐を主張する政治勢
力の間で起きた内戦であり、薩摩藩と長州藩を中心とする後者が勝利を収めました。内戦終結後、
中央集権的な統一国家を樹立する機運が高まり、明治国家の成立に繋がっていきますが、敗れた会
津藩士の苦難を思うたび、歴史の冷徹さを感じざるを得ません。また学生時代、サークルのコンパ
の席で山口県出身の H 君が、「まだ長州のこと恨んじよる？」と私に尋ねた時の真剣な表情が昨日
のように想い出されます。

ところで、**戊辰戦争当時の梁川はどのような状況にあったのでしょうか。**『梁川町史』やその他
の文献によれば、概略は次の通りです。江戸時代の信達地方（信夫郡と伊達郡）は村単位で幕府や
大名に支配され、頻りに領地替えが行われていました。梁川町域は梁川・泉沢・大門の 3 村が松前
藩領、向川原が棚倉藩領、その他の村は旧幕府領で仙台藩預かりとなっていました。1868 年 4 月、
新政府から会津討伐を命じられた仙台藩の兵士が梁川村に進駐します。まもなく仙台藩と会津藩の
武力衝突が起きますが、閏 4 月、仙台藩を中心に東北諸藩が白石に集まり、会津藩の救済を求める
嘆願書を作成し新政府側に提出しました。嘆願書が拒否されると、5 月、仙台藩が主導して東北・
北越諸藩による奥羽越列藩同盟が結成されるに至ります。信達地方は同盟軍と新政府軍の戦場とな
り、領民は両軍から様々な負担を強いられました。梁川村では領民に対して戦費、防御壁作り、人
夫役などの負担が課せられます。また、8 月には仙台藩兵が梁川村を焼き討ちする事件も発生して
います。直前に同盟軍の二本松城が陥落したため、仙台藩が巻き返しを図って兵を信達地方に進め
ましたが、その一部に軍規を乱した者がいたようです。『会津戊辰戦史』は「仙兵中に暴行を為す
者あり、福島及び保原、梁川等の諸所に乱入劫掠す」と記しています。梁川村は松前藩の分領で
したが、北海道に本拠をおく松前藩は、先の嘆願書に署名はしませんでした。白石会議に家老を派遣
し、その一方で新政府軍に家臣を派遣し六千両を献金するなど、日和見的な態度をとりました。福
島城下では民衆による打ち壊しが発生したり、武装した農民兵が仙台兵と
衝突したりと、緊迫した状況下で起きた事件でした。戦況は新政府軍優勢
のまま推移し、9 月には福島藩、仙台藩、そして会津藩が降伏します。そ
の後、戦場は北海道に移り、函館戦争を経て、戊辰戦争は終焉を迎えました。
ちなみに松前藩は新政府支持に回り、明治 4 年の廃藩置県まで梁川を
分領として支配しました。戊辰戦争勃発から 150 年。日本が近代国家の道
を歩み始めるエポックメイキングとなった出来事が、学校のある梁川の歴
史に大きな影響を与えていることを改めて実感させられます。



本校校門前にある松前藩時代の
梁川城大手門についての案内板

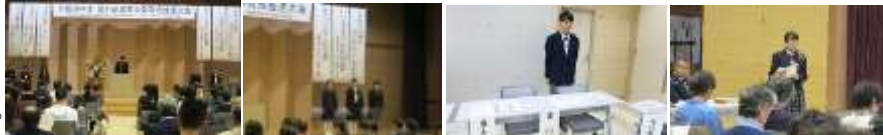
中間考査
が終了し
ました。

先週、中間考査が終了しました。今週は教科担当の先生から答案が返却されて
います。生徒諸君は点数に一喜一憂することなく、間違った問題を確実に自分の
ものにすることが大切です。できなかった原因を自分なりに分析し、学力の向上
に努めましょう。保護者の皆様にも中間考査の結果がどうだったか、子供さんに
一声かけていただければ幸いです。

■ 梁川地区青少年育成推進大会が行われました



10月6日、梁川小学校体育館において青少年育成推進大会「少年の主張」が行われ、梁川地区の小学生、中学生、高校生の各代表6名が『私の家族』を共通テーマに発表しました。本校からは1年生の野田愛優美さんが出場し、「家族の大切さ」という題で発表を行いました。その内容は、**家族は自分があるままの姿で安心して楽な気持ちになれる場所であり、家族とのコミュニケーションを大切に、自分を愛してくれる家族への感謝の気持ちを忘れずに生きていきたい**という気持ちを綴ったものでした。どの発表も素晴らしく、来場した地域の方々に感動を与えるものでした。当日は本校の生徒会役員が司会進行と受付を担当しました。紙面を借りて野田さん、生徒会役員の諸君、引率や作文指導に当たっていただいた先生方に感謝申し上げます。お疲れ様でした。



■ PTA 視察研修がありました



参加者の皆さん

10月5日、PTA 視察研修が行われました。この研修は会員の皆様の交流を図るとともに、上級学校や優良企業等を見学することで、進路について見聞を広めてもらうことを目的に毎年実施しています。今年の訪問先は、郡山市のwiz国際情報工科自動車大学校、二本松市の福島介護専門学校、大玉村の向山製作所大玉ベースでした。今回、私は公務のため参加できませんでしたが、加藤会長さんをはじめとするPTA 役員の皆様と担当教員が研修してきました。移動のバスは和気藹々、各学校の進路情報を聴くことができ、有意義な研修であったと報告がありました。また、お土産にいただいた向山製作所の生キャラメルはまるやかな甘さと、口の中でとろけるような柔らかさが絶品でした。



左：wiz 国際情報工科自動車大学校 中：向山製作所にて 右：福島介護専門学校にて

部活動だより

【ソフトテニス部】

県北高校学年別大会 (10/7 あづま総合運動公園)
佐藤・齋藤組、村上・結城組、高橋・齋藤組 予選リーグ敗退

【野球部】

練習試合 (10/6 会津農林高校)
川俣・梁川0-9 会津農林

校内で授業研究に取り組んでいます その2



10月3日は英語科の加藤泰裕教諭の授業(3年2組)を参観しました。コミュニケーション英語Ⅱにおいて、生徒たちは前時に引き続き英作文に取り組み、完成した生徒から各自プレゼンテーションの練習を行いました。テーマは「自分が住んでみたい街や場所とその理由」でしたが、生徒たちはグループごとにまず和文を作り、それを英文に仕上げていく学習を行いました。修正が必要な英文については、加藤先生がヒントや手がかりになる事柄を生徒一人ひとりに投げかけ、生徒から英語を引き出しながら、自力で修正できるよう丁寧に指導していました。グループ内では英作文の苦手な生徒に対して、周囲の生徒がいっしょに考えたり、教え合ったりするなど、協働的な学びの場面が随所で見られました。また、わからない単語を熱心に辞書で調べる生徒の姿も見られました。意欲的に取り組む態度が生徒たちに身につけていたのは、加藤先生の日頃からの指導の賜物と言えるでしょう。

完成した英作文に赤ペンで丸をつける加藤先生



衣替えがありました

10月1日は衣替え。夏服から冬服へと切り替わりました。生徒諸君は端正な服装を心がけましょう。いつ面接試験を受けても、対応できる制服の着こなしを目指しましょう。特に男子生徒はネクタイをしっかり締めること、ズボンはズリ下げないように。女子生徒はリボンをしっかり締めること、スカートを手で捲って履かないように。すべては社会人になるための準備です。保護者の皆様には家を出る時に子供さんの服装を見ていただきますようお願いいたします。

創立百周年記念事業実行委員会より

10月2日、創立百周年記念事業実行委員会の役員会が開かれました。決定事項は次のとおりです。次回は11月6日(火)です。なお、募金について不明な方は事務局六戸善廣さん(024-577-1267)までお問い合わせください。

【主な決定事項】

- (1) 記念式典当日の日程(式典 10:30～、オペラ公演 13:30～、祝賀会 16:30～)
- (2) 記念式典係の業務を繰り上げて11月から開始。
- (3) 顕彰規定は90周年に準じ、大口募金者も対象とする。また、対象者が故人の場合は代理出席者に表彰状を渡す。